

一級河川吉井川水系下流ブロック 河川整備計画(原案)

概要説明資料

令和7年3月

概要説明資料～目次～

- | | | | |
|----|-------------|----|-------|
| 1. | 流域および河川の概要 | P. | 1～2 |
| 2. | 近年の洪水概要 | P. | 3 |
| 3. | 整備対象河川の選定 | P. | 4 |
| 4. | 現況流下能力 | P. | 5～6 |
| 5. | 整備目標・工事施行区間 | P. | 7 |
| 6. | 河川整備計画整備概要 | P. | 8～12 |
| 7. | 流域治水の推進 | P. | 13～14 |

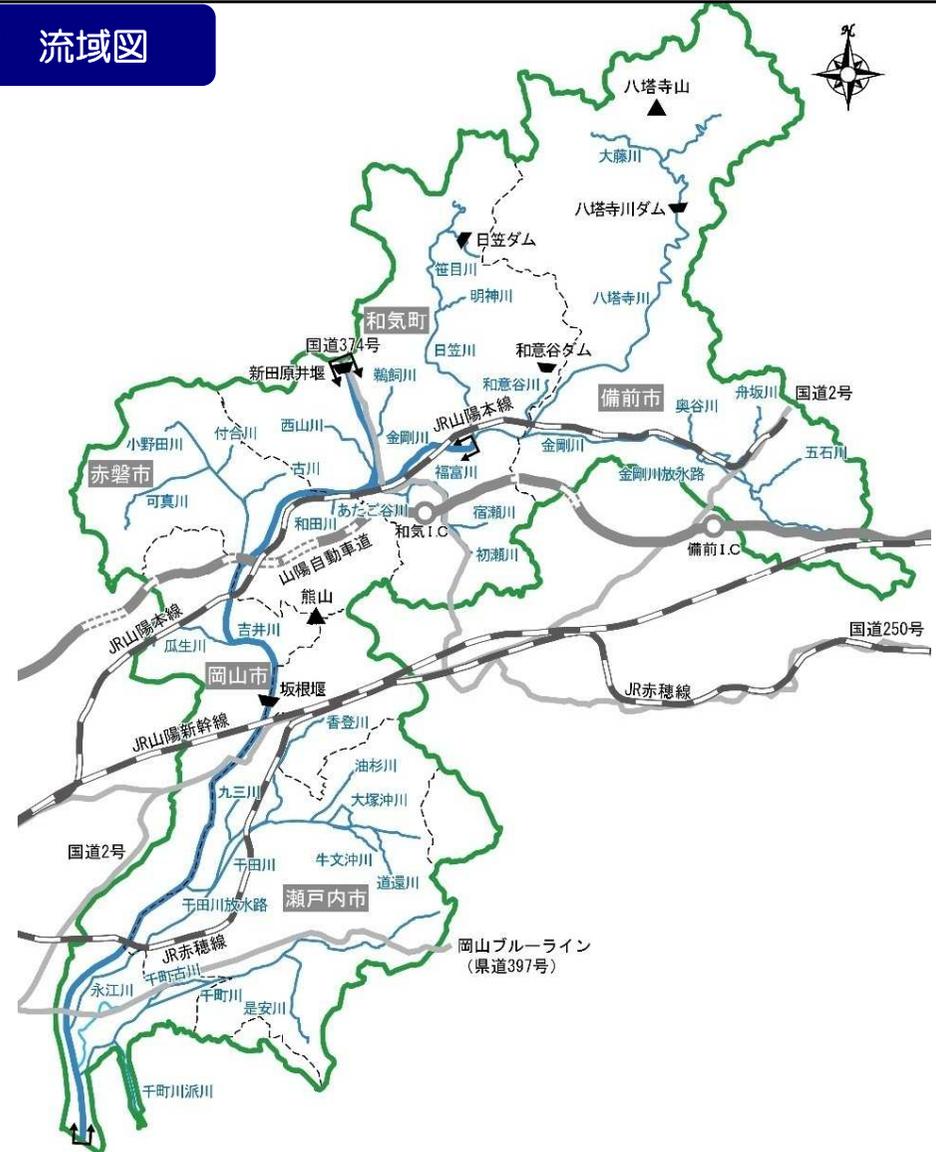
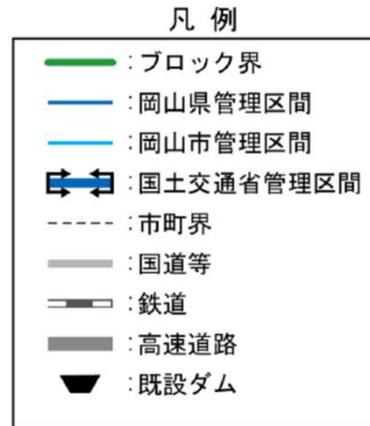
1. 流域および河川の概要

吉井川水系下流ブロックにおける吉井川本川は、苫田郡鏡野町の三国山に源を発し、山間を幾多の支川を合わせながら南流し、国土交通省大臣管理区間の上流端に至ります。新田原井堰に流入し、南流した後すぐに、本ブロック内の最大支川である金剛川を合流します。金剛川は、八塔寺川、日笠川を合流しています。金剛川と合流した吉井川は、南西へ向きをかえ、さらに、赤磐市を流れる小野田川等の支川を合わせ、坂根堰へ流入します。その後岡山平野の低平地域を南流し、干田川、千町川等の河川を合流して児島湾に至ります。ブロック内の河川数は35河川、流域面積は約326km²、河川延長は約142kmです。

吉井川水系流域図



吉井川水系下流ブロック 流域図



吉井川水系下流ブロックの諸元

河川数	35河川(吉井川水系全体215河川)
流域面積	約326km ² (吉井川水系全体約2,110km ²)
河川延長	約142km(吉井川水系全体約1,061km)
関係市町人口	約22万人(令和2年度国勢調査)
関係市町	岡山市東区、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気郡和気町
主なライフライン	山陽自動車道、国道2、250、374号、岡山ブルーライン(県道397号)、JR山陽新幹線、山陽本線、赤穂線

1. 流域および河川の概要

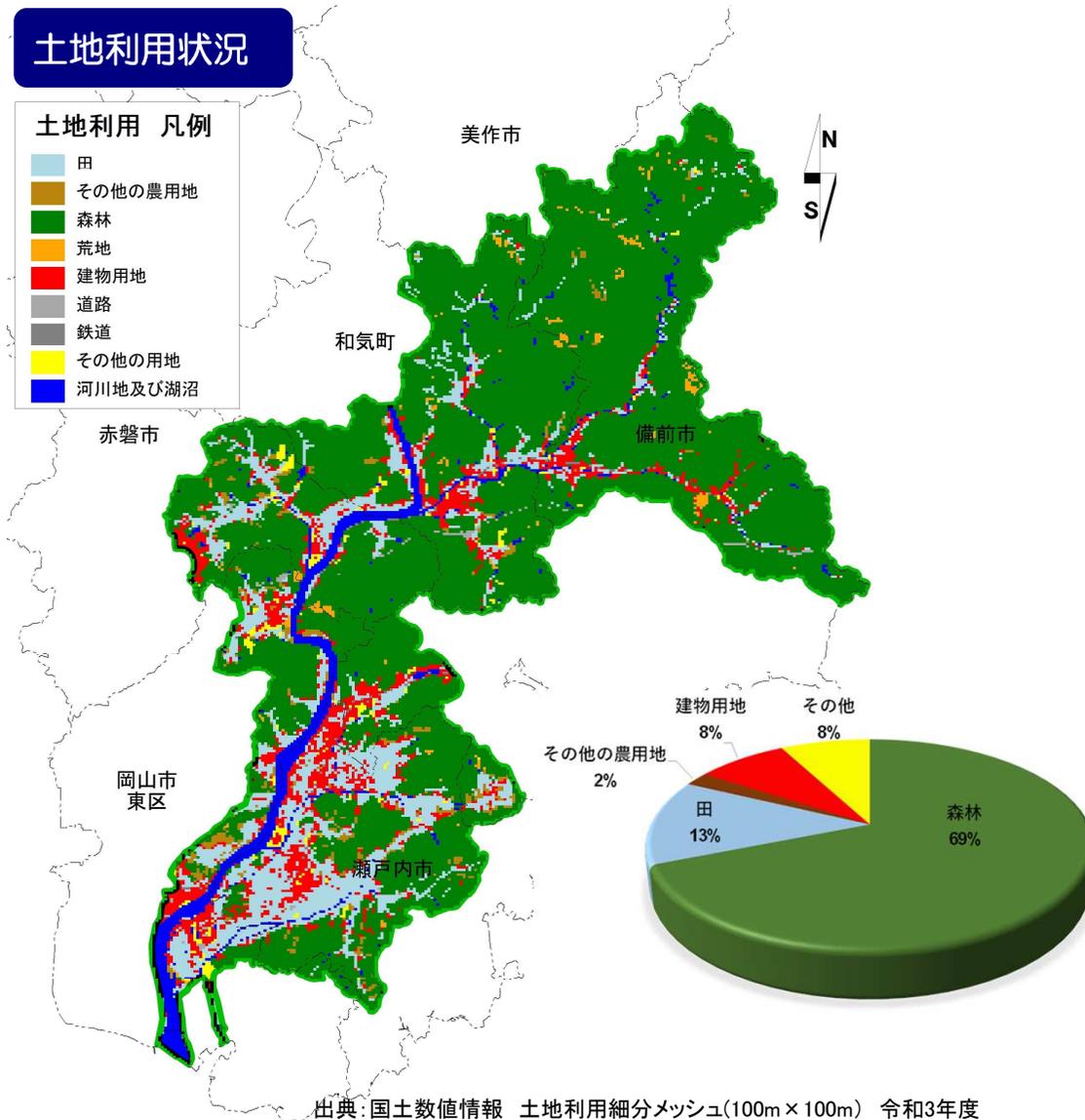
吉井川水系下流ブロックの土地利用状況は、森林が約69%、田13%、その他の農用地2%、建物用地8%、その他8%で、平地の多くは水田や建物用地になっています。

気候は温暖で、年平均気温は14℃、年降水量は1,100~1,200mm程度で、降雨量は梅雨期の6~7月および台風期の9月に多くなります。

土地利用状況

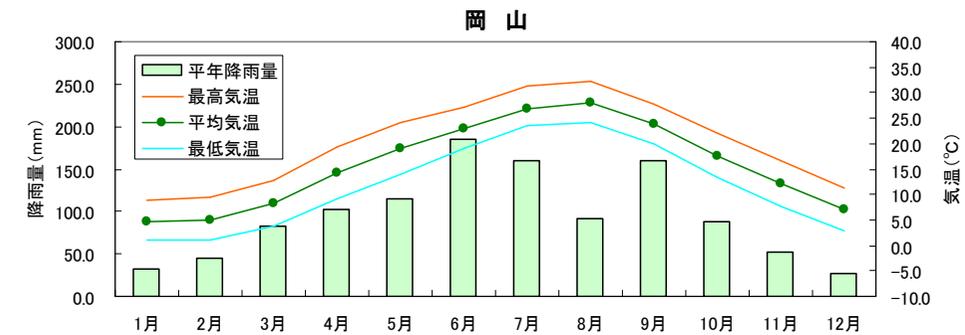
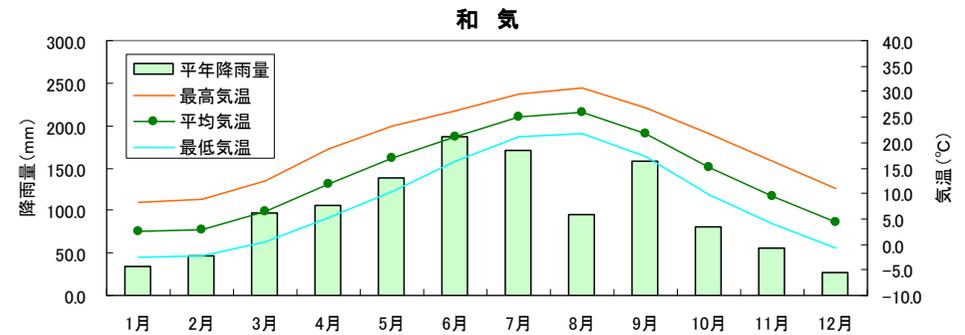
土地利用 凡例

- 田
- その他の農用地
- 森林
- 荒地
- 建物用地
- 道路
- 鉄道
- その他の用地
- 河川地及び湖沼



出典: 国土数値情報 土地利用細分メッシュ(100m×100m) 令和3年度

気温・降雨量



出典: 気象庁HPデータより作成
1991~2020

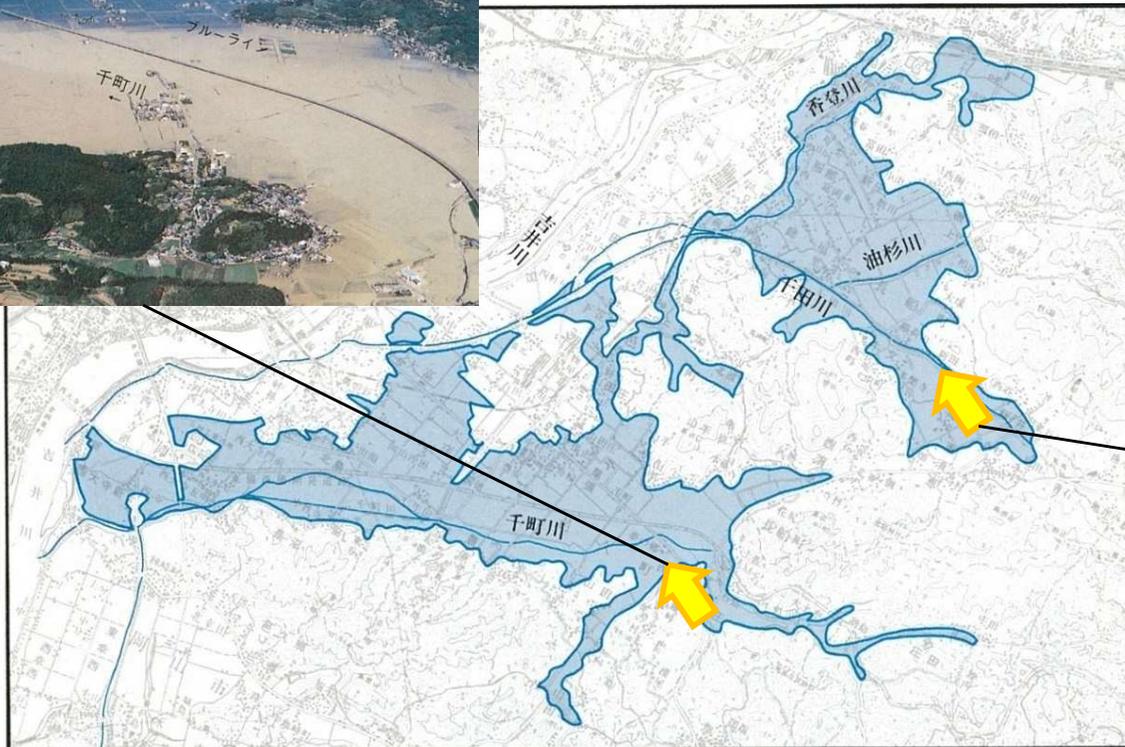
2. 近年の洪水概要

吉井川水系下流ブロックでは、古くから洪水被害が繰り返されてきており、昭和以降の主な洪水は、昭和51年9月（台風17号）、平成2年9月（台風19号）による洪水が、大きな被害をもたらしました。

平成2年9月洪水の被害状況

平成2年9月洪水では、太平洋を北上してきた台風19号が、山陰に停滞していた秋雨前線を刺激し、金剛川流域では短時間に非常に強い降雨となり、千町川、千田川流域においては、総雨量400mm以上に達しました。この洪水による被害状況は、低地にある家屋では浸水が4日間にも及び等の被害が発生し、この洪水によりブロック全体では、浸水面積約2,800ha、被害家屋は約4,400戸に達し、昭和51年9月以来の大きな災害となりました。

平成2年9月洪水：千町川 邑久町付近の浸水状況



平成2年9月洪水：浸水実績図（千町川、千田川流域）

平成2年9月洪水：千田川 長船町付近の浸水状況



出典：吉井川水系千田川・千町川激特事業 パンフレット
岡山河川事務所・岡山県

3. 整備対象河川の選定

当ブロック内では35河川、約142kmと多くの区間を有しており、全ての河川整備が完了するまでには、膨大な費用と期間が必要です。そのため、事業中河川や背後地の資産状況等の河川重要度等から、今後30年間で整備する河川や箇所を選定し計画的な河川整備を実施することとしています。本ブロックでは、以下のフローに従い整備計画対象河川を選定しました。

整備対象河川の選定フロー

1次選定

事業中河川を優先的に選定

2次選定

社会経済指標（想定氾濫区域内資産等）に基づき河川重要度による選定

3次選定

2次選定された河川から、地元要望による選定

4次選定

過去の水害発生状況による選定
（特に近年の主要水害を重視）

5次選定

整備計画目標に対応した流下能力による選定
（改修状況）

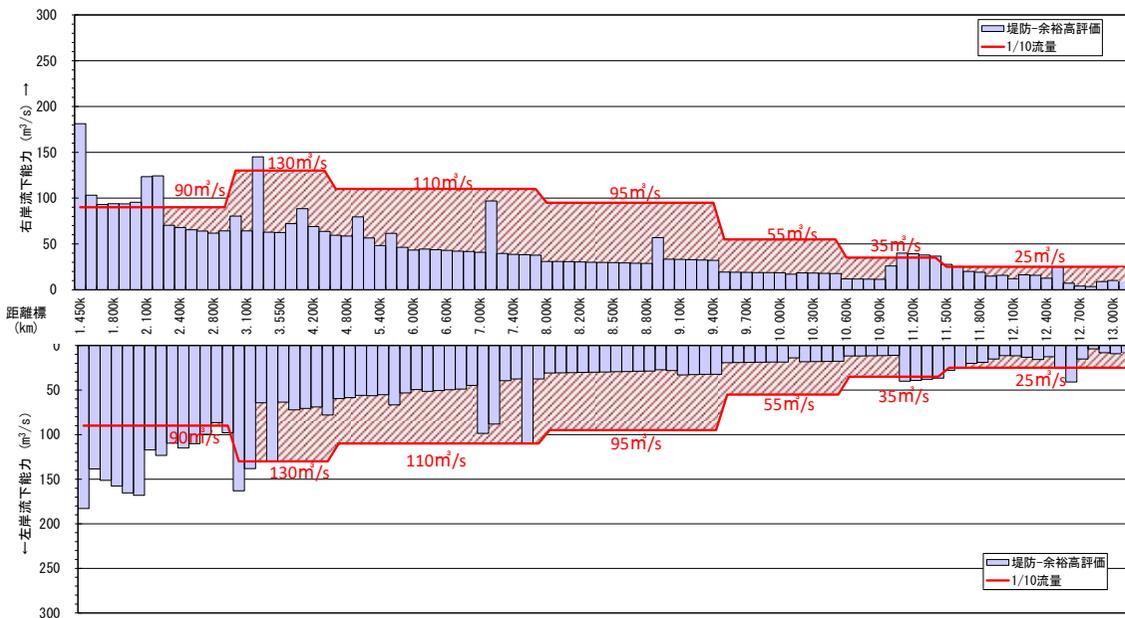
千町川、千田川、香登川を選定
千町川と一体整備が必要な
是安川を選定

河川名	1次選定	2次選定	3次選定	4次選定	5次選定	対象河川の選定
	事業中河川	河川重要度	改修要望	水害履歴	流下能力	
千町川	○	○	○	○	○	○
千町川派川		○				
千田川	○	○	○	○	○	○
千田川放水路		○				
香登川	○	○	○	○	○	○
小野田川		○				H29改修完了
初瀬川		○				H30改修完了
金剛川		○				S55改修完了
日笠川		○				S63改修完了
八塔寺川		○				S51改修完了

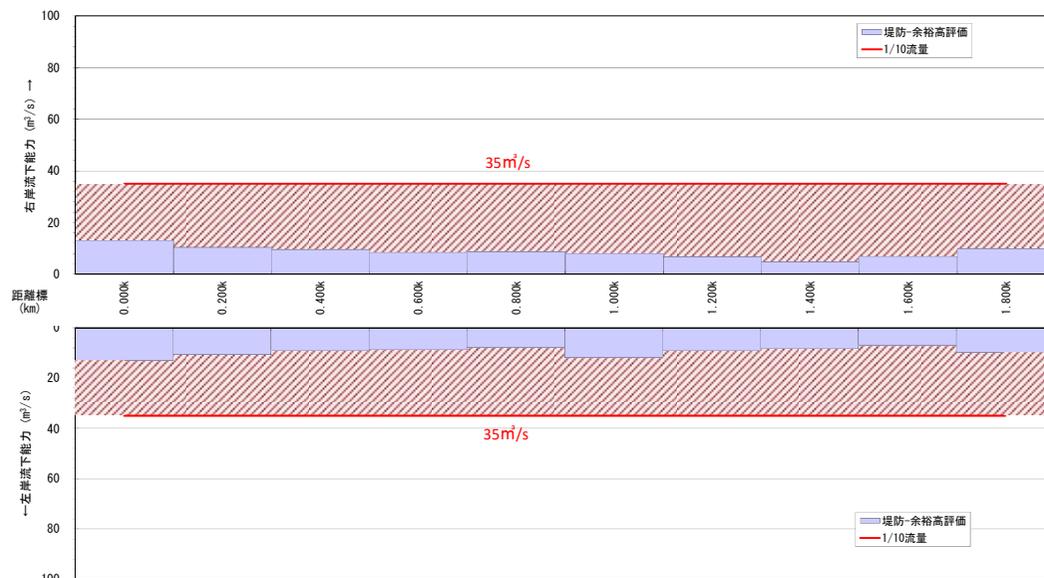
4. 現況流下能力

現況河道の流下能力は、年超過確率1/10の規模の洪水に対する流量に満たない区間が多くあります。

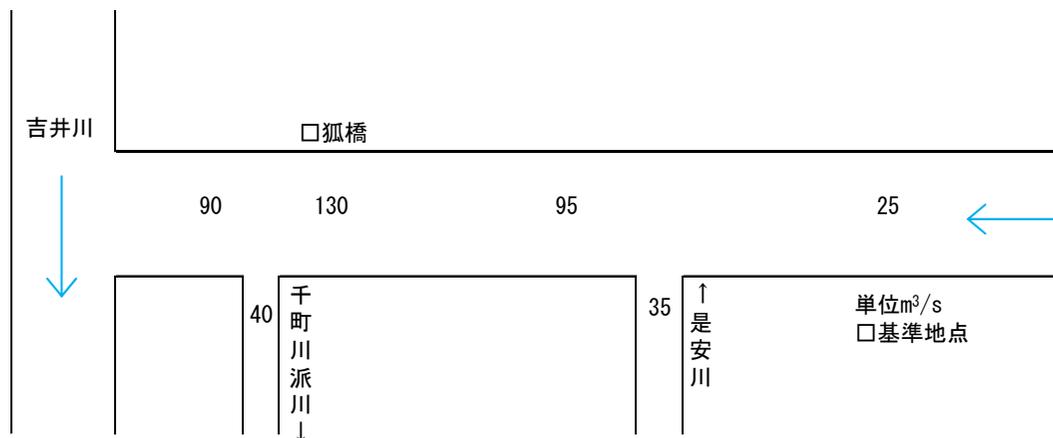
◆千町川 現況流下能力図



◆是安川 現況流下能力図



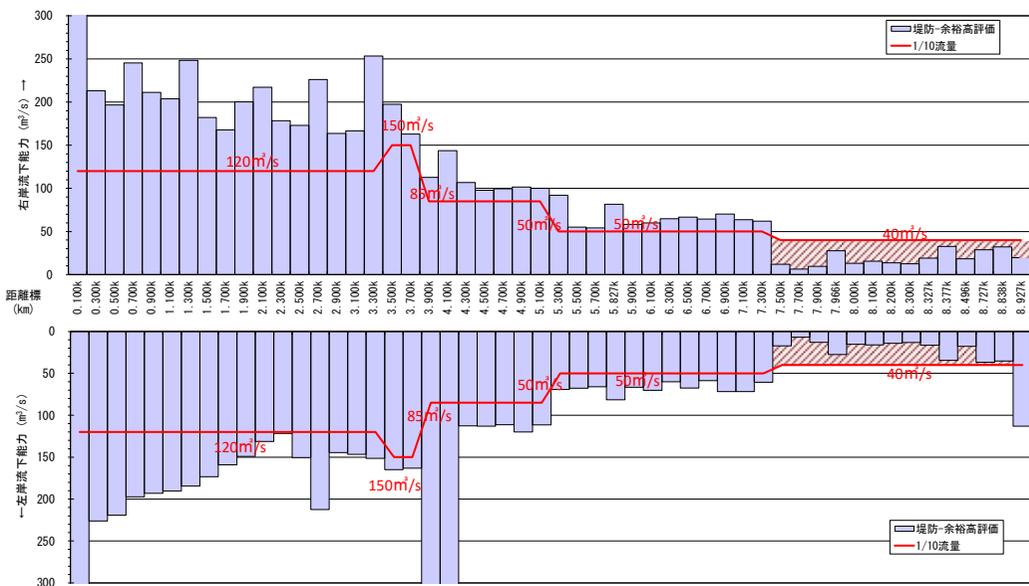
◆千町川及び是安川 流量配分図(1/10)



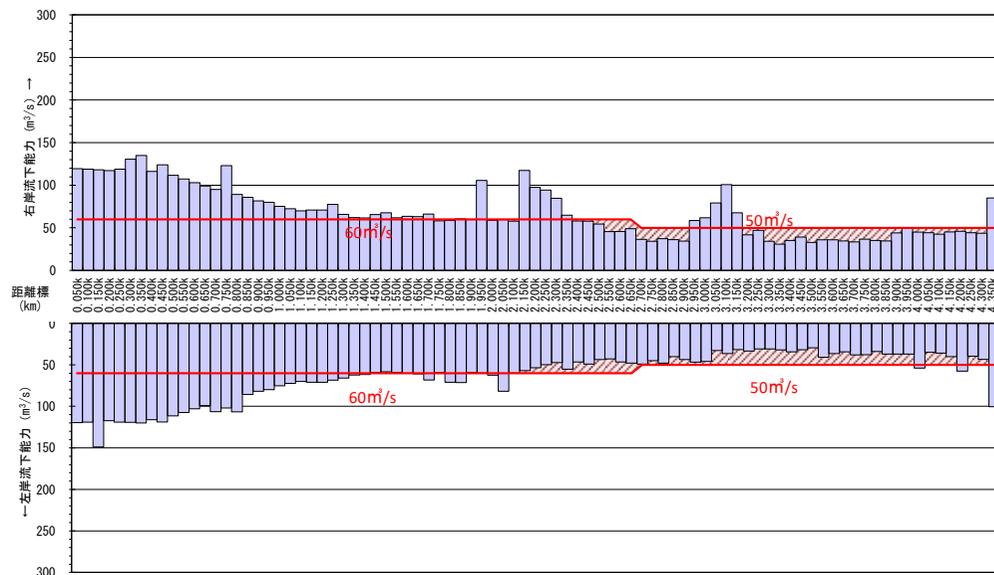
4. 現況流下能力

現況河道の流下能力は、年超過確率1/10の規模の洪水に対する流量に満たない区間が多くあります。

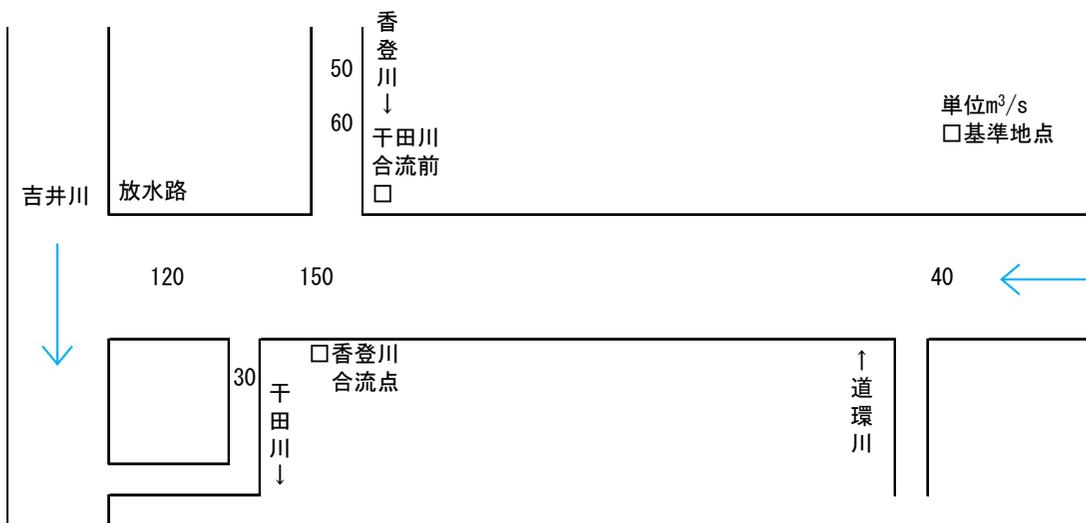
◆干田川 現況流下能力図



◆香登川 現況流下能力図



◆干田川及び香登川 流量配分図(1/10)



5. 整備目標・工事施行区間

- ・年超過確率1/10の規模の洪水に対して、流下能力の不足する区間を工事施行区間とします。
- ・整備対象期間は概ね30年間とします。

整備目標

「年超過確率1/10の規模の洪水に対して、人家等の浸水被害の解消」を整備目標とします。

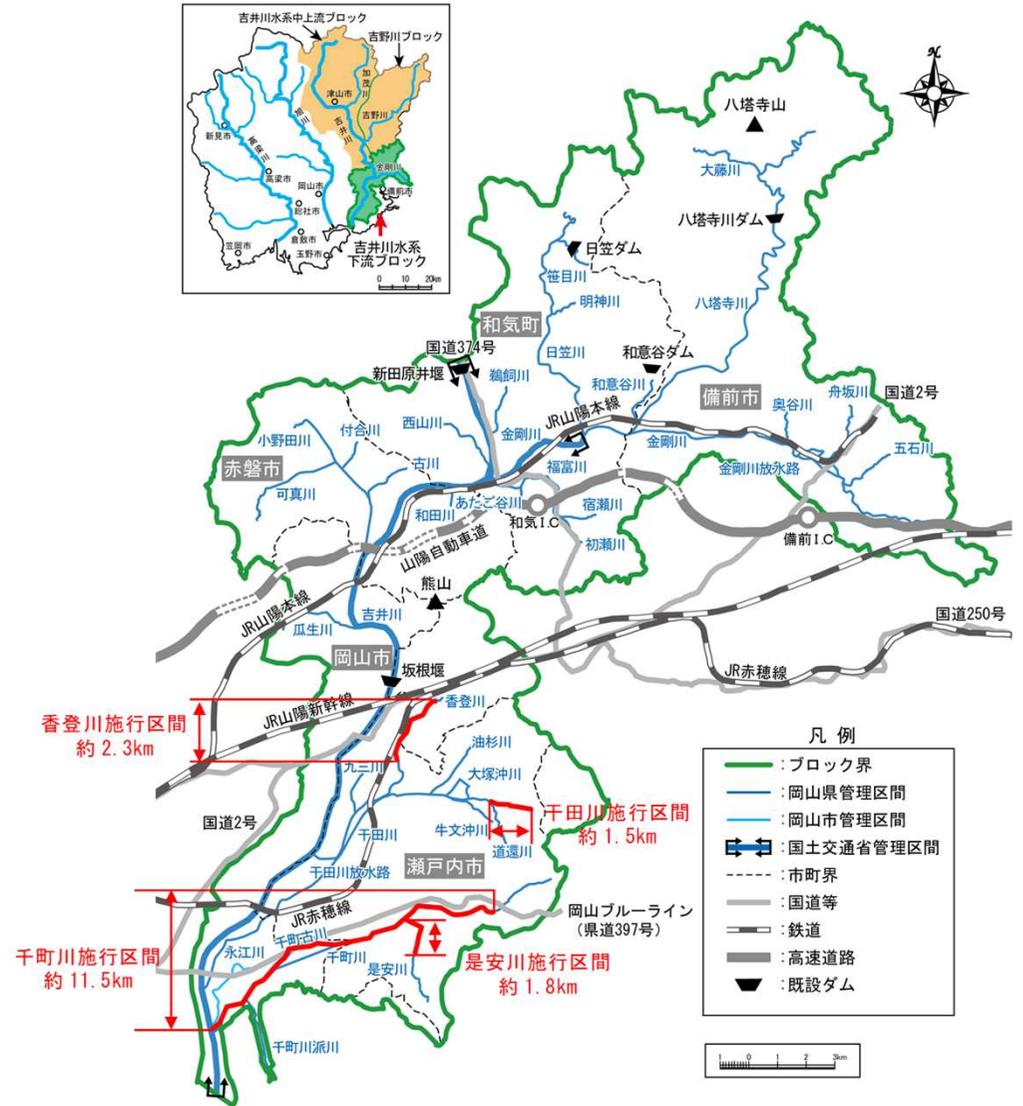
また、平成2年9月洪水と同程度の洪水から人家等浸水被害の軽減を目指します。

整備対象期間

概ね30年間とします。

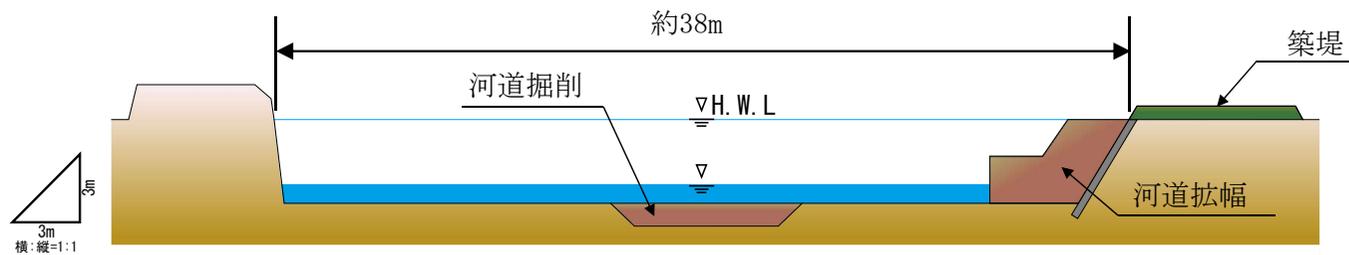
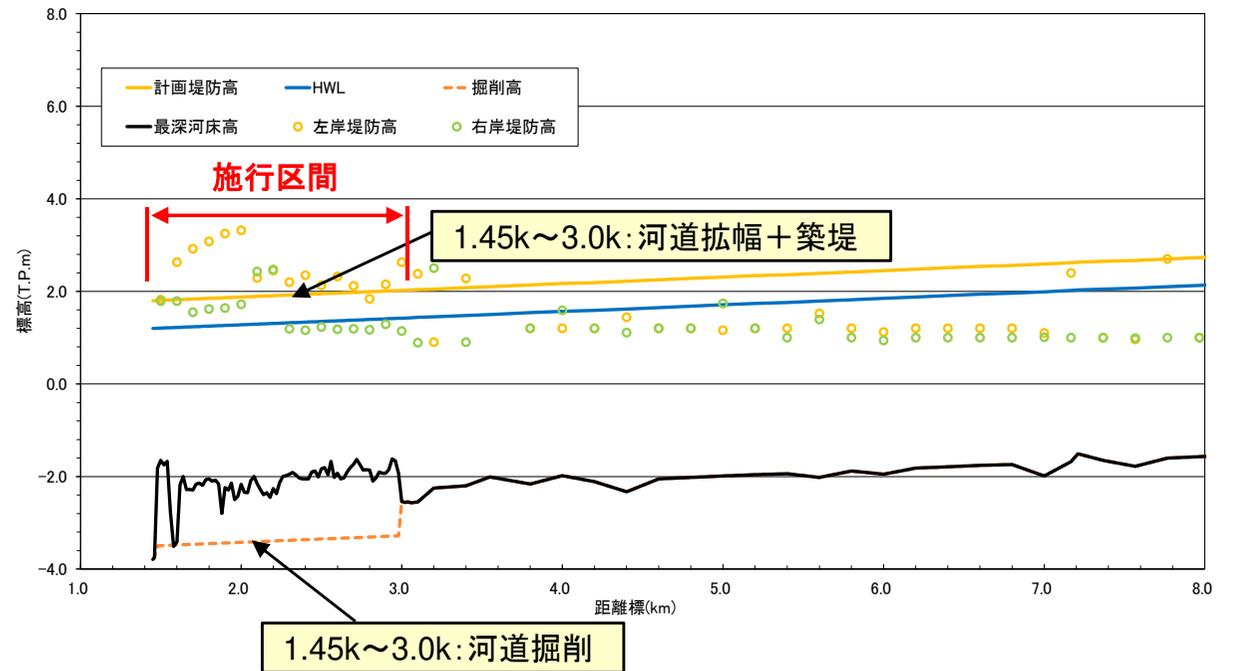
施行区間・整備概要

種別	河川名	対象区間	延長
河川改修	千町川	吉井川合流点から上流宮川橋付近	約11.5km
河川改修	是安川	千町川合流点から上流山田橋付近	約1.8km
河川改修	千田川	道環川合流付近から上流荒池付近	約1.5km
河川改修	香登川	清水橋付近から上流丸山橋付近	約2.3km



6. 河川整備計画整備概要

千町川：1.45k~3.0k



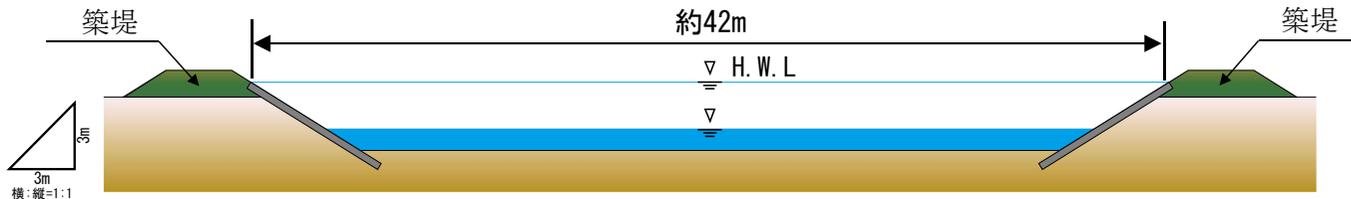
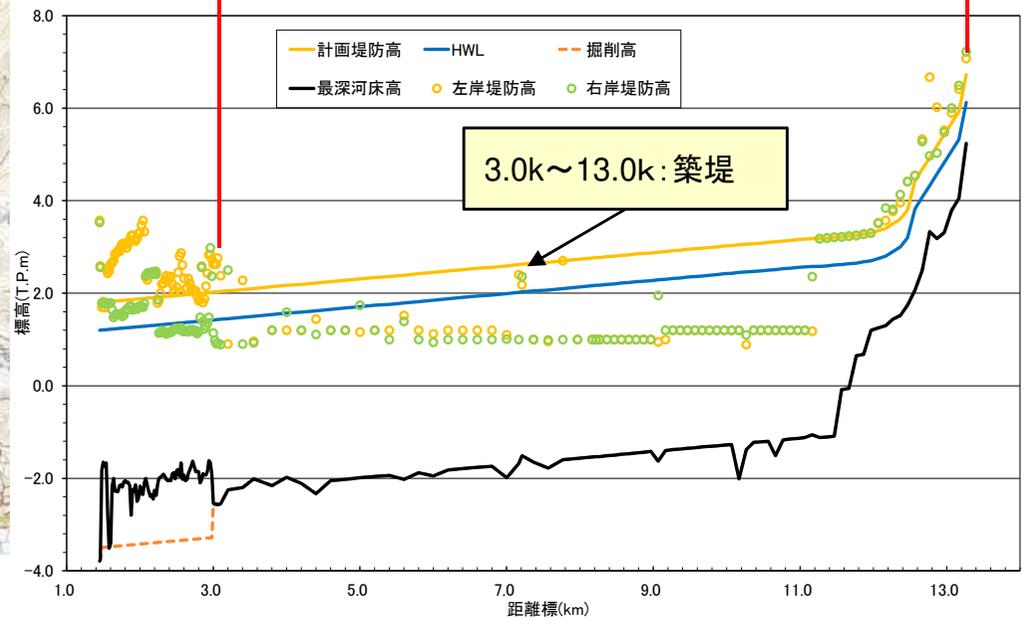
千町川(2.5k付近)

6. 河川整備計画整備概要

千町川：3.0k~13.0k

<凡例>

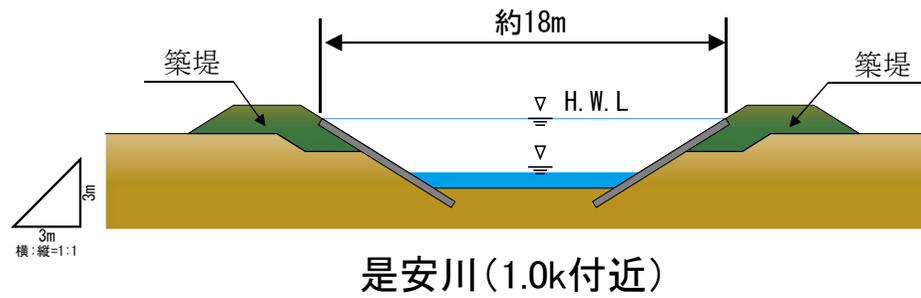
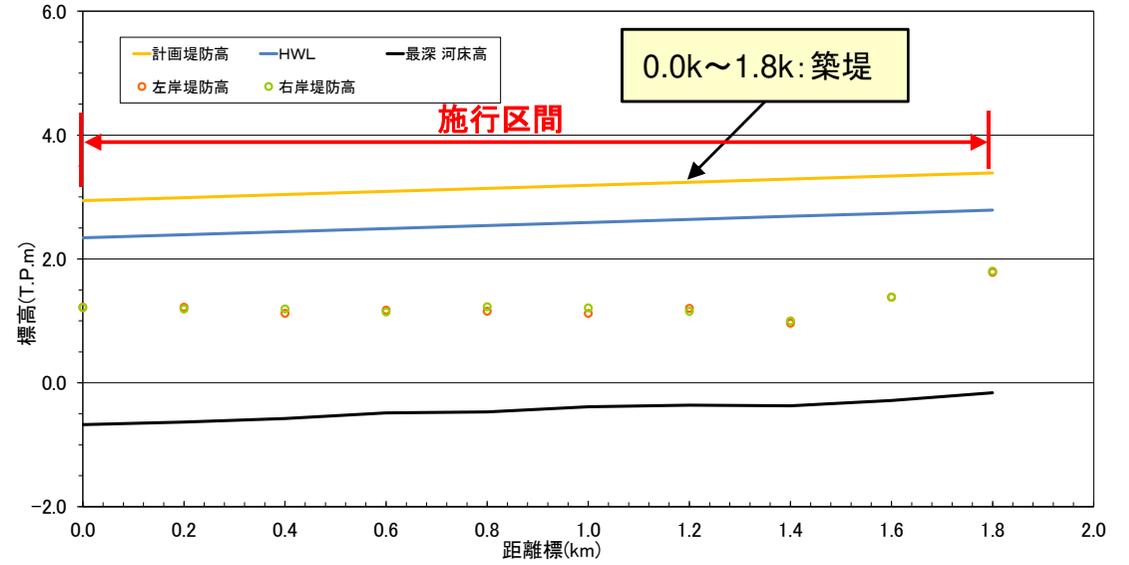
— 築堤



千町川(8k付近)

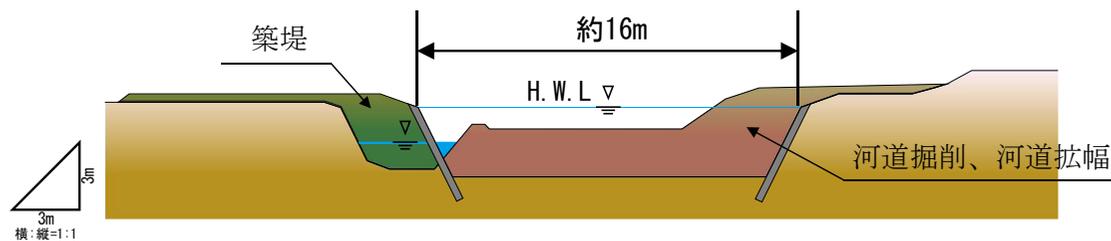
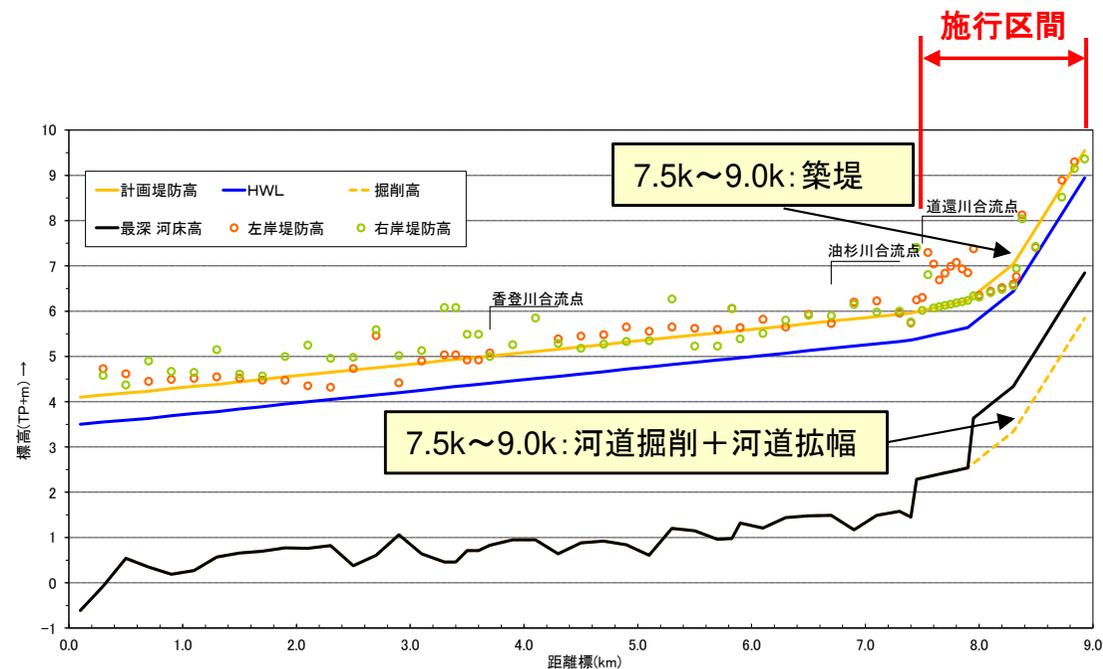
6. 河川整備計画整備概要

是安川：0.0k～1.8k



6. 河川整備計画整備概要

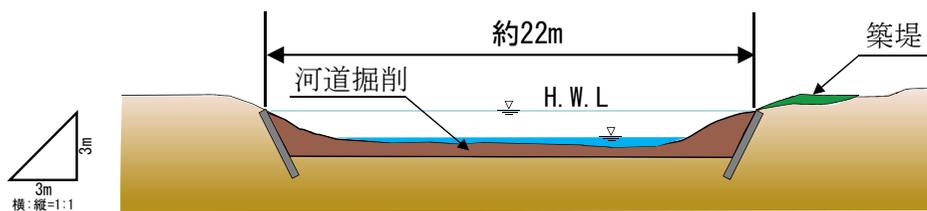
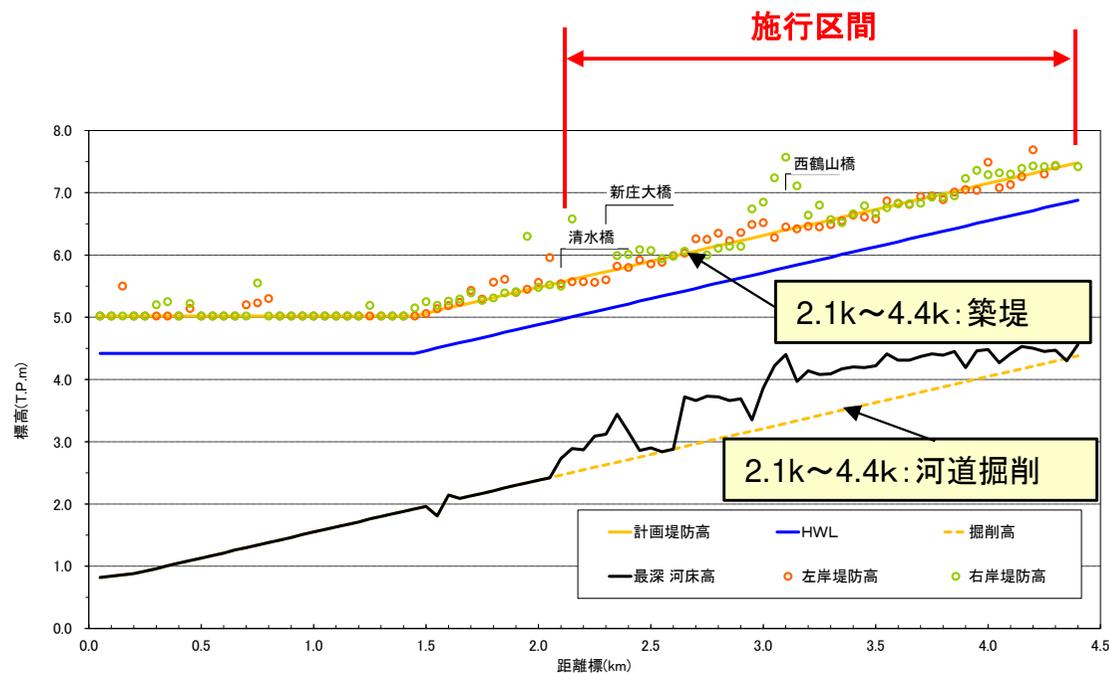
干田川：7.5k~9.0k



干田川(7.5k付近)

6. 河川整備計画整備概要

香登川：2.1k～4.4k



香登川 (2.8k 付近)

7. 流域治水の推進(流域治水の考え方)

- 気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備を加速するとともに、**流域のあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方。**
- ①**氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策**、②**被害対象を減少させるための対策**、③**被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**をハード・ソフト一体で多層的に進める。

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大
[国・市、企業、住民]
雨水貯留浸透施設の整備、
ため池等の治水利用

流水の貯留

[国・県・市・利水者]
治水ダム建設・再生、
利水ダム等において貯留水を
事前に放流し洪水調節に活用
[国・県・市]
土地利用と一体となった遊水
機能の向上
持続可能な河道の流下能力
の
維持・向上
[国・県・市]
河床掘削、引堤、砂防堰堤、
雨水排水施設等の整備
氾濫水を減らす
[国・県]
「粘り強い堤防」を目指した
堤防強化等

②被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導/
住まい方の工夫

[国・市、企業、住民]
土地利用規制、誘導、移転促進、
不動産取引時の水害リスク情報提供、
金融による誘導の検討

浸水範囲を減らす
[国・県・市]
二線堤の整備、
自然堤防の保全

流域治水のイメージ



③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実
[国・県]
水害リスク情報の空白地帯解消、
多段型水害リスク情報を発信
避難体制を強化する
[国・県・市]
長期予測の技術開発、
リアルタイム浸水・決壊把握
経済被害の最小化
[企業、住民]
工場や建築物の浸水対策、
BCPの策定
住まい方の工夫
[企業、住民]
不動産取引時の水害リスク情報
提供、金融商品を通じた浸水対
策の促進
被災自治体の支援体制充実
[国・企業]
官民連携によるTEC-FORCEの
体制強化
氾濫水を早く排除する
[国・県・市等]
排水門等の整備、排水強化

7. 流域治水の推進(吉井川水系流域治水プロジェクト【R5年度時点】)

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
- 堤防整備、堤防強化、河道掘削、堰改築【岡山市、中国地整】
 - ポンプ場の耐水化・耐震化【岡山市、津山市、赤磐市】
 - 排水ポンプの新設・増設【津山市、和気町、美咲町】
 - 雨水排水路の断面拡大【津山市、備前市】
 - 用水路から雨水管渠への取水ゲートの遠隔操作化【岡山市】
 - 可搬式排水ポンプの配備【岡山市、赤磐市、美作市】
 - 土砂流出対策施設の整備【岡山県、近畿中国森林管理局】
 - 利水ダム等13ダムにおける事前放流等の実施、体制構築【岡山県、中国電力(株)、土地改良区、中国地整等】
 - 地下貯留施設の新設【岡山市】
 - 用水路の事前水位低下による雨水貯留【岡山市】
 - 改修を行う農業用ため池について活用を検討
 - 大規模な開発行為等に伴う雨水流出抑制施設の整備に対する補助【岡山市】
 - 補助制度を活用した各戸貯留施設設置の推進【岡山市】
 - 森林の整備による洪水緩和機能の適切な発揮【岡山県、森林整備センター、近畿中国森林管理局】
 - 透水性舗装を用いた歩道整備【岡山市、中国地整】等

- 被害対象を減少させるための対策**
- 立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進【岡山市、津山市】
 - 浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定の検討【備前市、赤磐市、鏡野町】等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
- 内水ハザードマップの作成、公表【岡山市】
 - web版ハザードマップの公表【岡山市】
 - 内外水統合型水害リスクマップの作成、公表【中国地整】
 - 水害リスク情報空白域の解消【岡山県】
 - 止水板設置に対する補助【岡山市、瀬戸内市】
 - 避難路の整備【和気町】
 - 防災情報伝達システム運用【瀬戸内市】
 - 防災訓練等に係る助成金の支給【瀬戸内市】
 - 関係機関が連携したタイムラインの運用、改善
 - 水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供
 - マイ・タイムライン等による防災教育
 - 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
 - ワンコイン浸水センサによるリアルタイムの浸水把握(DX)【備前市、中国地整】
 - 総合水防演習や講習等の実施による水防活動の強化
 - インフラDXにおける新技術の活用 等

凡例

- 排水ポンプの新設・増設
- 排水ポンプの新設・増設(完了)
- ◻ 大臣管理区間
- ◻ 流域界
- ◻ 完了した取組

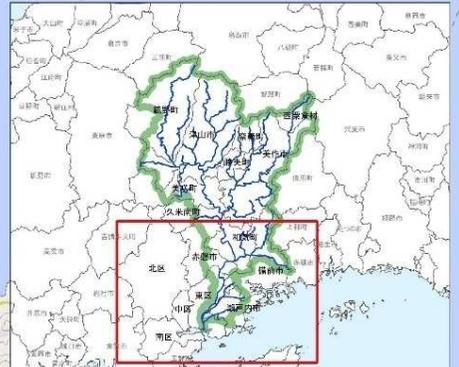
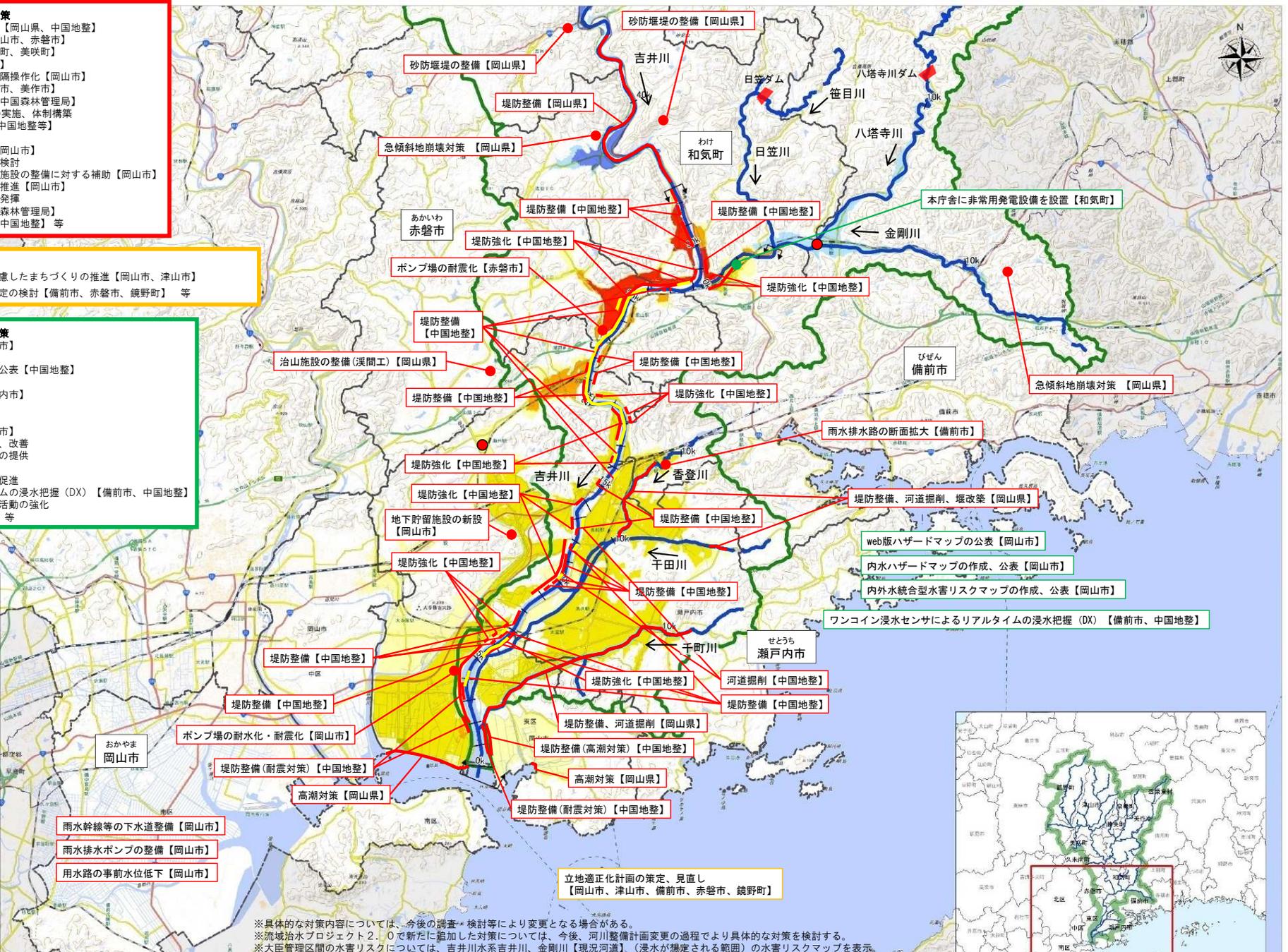
浸水が想定される範囲

大臣管理区間(水害リスクマップ):

- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 低頻度(1/150)
- 想定最大規模

県管理区間(洪水浸水想定区域図):

- 計画規模
- 想定最大規模



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後、河川整備計画変更の過程でより具体的な対策を検討する。
 ※大臣管理区間の水害リスクについては、吉井川水系吉井川、金剛川【現況河道】(浸水が想定される範囲)の水害リスクマップを表示。
 ※県管理区間の洪水予報河川及び水位周知河川の洪水浸水想定区域図を表示。なお、図示している以外に中高頻度の浸水が想定される範囲も存在する可能性があることに留意。